

| 建築学科 | | | インテリア・デザイン | | | | |
|---|------|---|-------------|---|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 永田敦子 | | | | |
| 単位数・期間 | | 1単位 | 前期 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 生活の豊かさの根源としての住居に理解を深め、自分らしさを表現するためにインテリアの知識と方法を学習する。空間をコーディネートする手法としてプレゼンテーションボードを作製する。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | C:20%,F:80% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 用意するもの:巻尺(2～3メートル) 雑誌・のり・はさみ・定規・カッターマット 日常生活の中で体感する寸法を体得する。 | | | | | |
| 到達目標 | | 顧客満足度の高いプレゼンテーション作業が出来る知識、能力を学習し、実務に生かせる事が出来る。 プレゼンボードの作製と発表ができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 中間、期末テスト合計の平均点数により評価。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | (社)インテリア産業協会 生活文化とインテリア1 暮らしとインテリア。 | | | | | |
| メッセージ | | 生活の中で住宅は単なる箱ではありません。 豊かな暮らしをする中で、その先にある物も考えることの出来る人間となる事が大切です。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| 1. 授業ガイダンス(1回) 2. 暮らしとインテリア(1回) 3. 空間の計画1(1回) 4. 空間の計画2(1回) 5. 暮らしの計画1(1回) 6. 暮らしの計画2(1回) 7. 暮らしの計画2(1回) 8. インテリアの歴史(1回) | | | | 在学中に取得できる資格などを理解できる。 消費者問題、これからのインテリアを理解できる。 空間を造る・空間を仕上げる事を理解できる。 " 住まいの計画を理解できる。 インテリアコーディネートを理解できる。 プレゼンテーションの技術を理解できる。 茶室、床の間飾りを理解できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 9. 仕掛けの計画(1回) 10. 仕掛けの計画(1回) 11. プレゼンボード作成(1回) 12. プレゼンボード作成(1回) 13. インテリアと色彩計画(1回) 14. 作品発表(1回) 15. 総括(1回) | | | | 家具、収納を理解できる。 ウィンドウトリートメントを理解できる。 イメージボードを作製できる。 照明プランボードを作製できる。 色の三要素を理解できる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| | | | | | | | |
| 後期中間試験 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 後期期末試験 | | | | | | | |

| 建築学科 | | | 英語 | | | | |
|--|------|--|--------|---|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 林 幸利 | | | | |
| 単位数・期間 | | 5単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 3回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 教科書とその他の自主教材を用い、標準的な単語・熟語および標準的な文法の知識の習得、標準的な文章の読解力の養成、基礎的な表現力の養成、基礎的なリスニング力の養成を目指す。これらにより、論理的な文章を記述したり、基礎的なコミュニケーションを行えるための標準的な英語力を身につける。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | F:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 週1回のペースで、年間15回程度の英検単語集の「単語テスト」を行う。年間2回(7月上旬、2月中旬)、英語検定形式の実力試験である「英検テスト」を実施する。第2回の英語検定(10月実施)の準2級の試験を全員受験する(受験料は学校が負担、すでに取得済みの場合を除く)。学年末の再試は1回のみとします。 | | | | | |
| 到達目標 | | 単語・熟語、文法、読解、作文、リスニング、基礎的なコミュニケーションの各分野において、英語検定準2級レベルの英語に対応できる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 定期試験の成績を60%、「単語テスト」の成績を20%、「英検テスト」の成績を20%、これらの合計に0.8を掛け、それに英検準2級の評価点(2次合格20点、1次合格17点、A判定14点、B判定10点、C判定0点)を足した点数を英語の総合成績とする。さらに、この総合成績が60点以上の場合に、平常点を5点以内で加算・減算する。ただし、その結果は60点～100点に収まるものとする。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書1:POLESTAR ENGLISH COURSE?(数研出版) 教科書2:英検文で覚えるプラス単熟語準2級(旺文社) 参考書1:スーパーアンカー英和辞典(学研) 参考書2:2008年度版英検準2級全問題集(旺文社) | | | | | |
| メッセージ | | 語学は毎日の地道な取り組みによってのみ効果が表れます。授業はもちろん、予習・復習にしっかり時間を費やしてください。また、おっくうがらず辞書を調べること。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| 1. Lesson1, Lesson2(Part2まで) 2. 英検文法(7回) 3. 英検リスニング(3回) 4. 単語テスト | | | | 1. a) 文中の重要単語熟語の意味が言える。 b) 文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2. 英検準2級合格に必要な文法の基礎が理解できる。 3. 英検準2級のリスキングの基礎的な問題が聞き取れる。 4. 英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 1. Lesson2(Part3から), Lesson3 2. 英検文法(7回) 3. 英検リスニング(3回) 4. 単語テスト 5. 英検テスト(第1回) | | | | 1. a) 文中の重要単語熟語の意味が言える。 b) 文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2. 英検準2級合格に必要な文法の基礎が理解できる。 3. 英検準2級のリスキングの基礎的な問題が聞き取れる。 4. 英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。 5. 60%の得点率に到達できる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| 1. Lesson4, Lesson6(Part3まで) 2. 英検文法(7回) 3. 英検リスニング(3回) 4. 単語テスト | | | | 1. a) 文中の重要単語熟語の意味が言える。 b) 文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2. 英検準2級合格に必要な文法が理解できる。 3. 英検準2級のリスキングの標準的な問題が聞き取れる。 4. 英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。 | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 1. Lesson6(Part4から), Lesson8 2. 英検文法(7回) 3. 英検リスニング(3回) 4. 単語テスト 5. 英検テスト(第2回) | | | | 1. a) 文中の重要単語熟語の意味が言える。 b) 文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2. 英検準2級合格に必要な文法が理解できる。 3. 英検準2級のリスキングの標準的な問題が聞き取れる。 4. 英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。 5. 60%の得点率に到達できる。 | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施する | | | |

| 建築学科 | | | 化学 | | | | |
|---|------|---|--------|---|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 加藤 隆 | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 化学的に探求する態度と基本的な概念や原理・法則を学習してもらいます。また、人類が直面している環境問題に対し、科学的な視点から理解できる能力を、実験を行いながら身につけてもらいます。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | C:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 前期は座学で、毎回確認シートを使用します。その他、問題集も使用します。 後期は全て実験です。1、2年生で学習した知識と、レポート(14回)を書くために化学1の教科書、電卓を使います。 | | | | | |
| 到達目標 | | 有機化合物について基本的な理解ができる。コロイド、糖類、タンパク質などの身近の物質の理解ができる。また、実験書を読んで理解し、簡単な実験を行うことができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 試験(40%)、レポート(40%)、実験態度(20%) レポートの内訳:1 実験を、最後まで終えデータを正確に記入することができた(25%)、2 実験内容を理解し、考察を的確に行った(10%)3 実験に関係することを調べ、レポートの内容を発展させることができた(5%) | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書:文科省検定済教科書高等学校化学1(三省堂)、 参考書:基本セレクト化学1(数研出版)、 化学実験書(釧路高専化学科) | | | | | |
| メッセージ | | 前期は、パワーポイントを使って、講義中心で進めていきます。その他、適度の演示実験をしたり、小テスト、問題集の計算も行います。後期は全て実験ですが、身近なものを取り上げたテーマですので、楽しみながら学んで下さい。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| 有機化合物の特徴(1回) 有機化合物の分析(1回) 飽和炭化水素(1回) 不飽和炭化水素(2回) アルコールとエーテル(1回) アルデヒドとケトン、脂肪族カルボン酸(1回) エステルと油脂(1回) | | | | 有機化合物とは何かがわかり、官能基を説明できる。 元素分析の原理を理解し、元素分析により分子式を計算できる。 アルカンについてわかり、分類や異性体を説明できる。 アルケンとアルキンについてわかり、構造、性質の違いを説明できる アルコールとエーテルを理解し、その性質、化学反応がわかる。 アルデヒドとケトン、カルボン酸を学び、それらの化学反応の違いを説明できる。 エステル、油脂がわかり、セッケンについて説明できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 芳香族炭化水素(2回) コロイド(1回) 糖類(1回) アミノ酸とタンパク質(1回) 高分子化合物(2回) | | | | 芳香族炭化水素を学び、化学反応を説明する事ができる。 コロイドについて学び、その性質について説明する事ができる。 糖類について学び、その性質や分類を説明する事ができる。 アミノ酸について学び、タンパク質とは何かがわかる。 高分子化合物、プラスチックがわかり、その化学的違いを理解する事ができる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| 基礎実験1 基本操作(1回) 基礎実験2 融点測定(1回) 基礎実験3 中和滴定(1回) 基礎実験4 陽イオンの定性分析(1回) 実験1 反応熱の測定(1回) 実験2 凝固点降下測定(1回) 実験3 結晶水の定量と再結晶(1回) | | | | 化学実験の基本的操作をまなび、簡単な硝子細工ができる 融点測定法について学び、未知試料を調べる 中和滴定を行い、身近なものの濃度を測定できる 試料中の金属イオンを分離、定性分析できる 中和熱、溶解熱等を測定し、ヘスの法則を理解できる 溶液の凝固点を測定し、分子量を求められる 硫酸銅中の結晶水の測定、硝酸カリウムの再結晶を作ることができる | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施しない | | | |
| 実験4 鉄、銅及びその化合物とめっき(1回) 実験5 ファラデー定数、電池(1回) 実験6 pHの測定および滴定曲線(1回) 実験7 陰イオンの定性分析と鏡づくり(1回) 実験8 水溶液の識別(1回) 実験9 石鹼の製造とその性質(1回) 実験10 カフェインの単離(1回) 実験11 デンプンの加水分解(1回) | | | | 鉄と銅の性質について調べ、ニッケルメッキができる 電気分解でファラデー定数を求め、電池を作る 身近なもののpHを測定、滴定曲線を書ける 陰イオンの性質を調べ、銀鏡反応を利用し鏡を作る 未知の水溶液の性質を調べ、その試薬名を当てられる 透明石けんを作り、その性質を調べられる お茶からカフェインの結晶を取り出すことができる デンプンの加水分解を温度、時間、触媒を変え調べられる | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施しない | | | |

| 建築学科 | | | 環境問題現地研究 | | | | |
|--|------|--|-------------------------|---|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 浦家淳博, 佐川正人 | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 前期 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 身近な環境と、地球規模の環境とのつながりについて理解できる。 現代世界の環境事象を地学的に考察し、現代世界の環境的認識を養うとともに、地学的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | A:30%,B:20%,E:20%,F:30% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 授業中の欠席は指定する座席の着席により判断する。 授業に必要な野帳は必ず購入し、授業中気づいたこと等を各自記入すること。 野帳は最終授業終了後に回収し評価した後、年度内に返却する。 提出物はすべて授業中に完結すること。授業時間外に受けとることはしない。 休憩は取るので授業中の小用は認めない。 | | | | | |
| 到達目標 | | 身近な環境と、地球規模の環境とのつながりについて理解し、環境問題に関する基本的な図表を適切に読みとることができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 合否判定:定期試験得点が60点以上であること。 最終判断:最終評価=合否判定の点数±その他の評価点(±10点以内) ただし、最終評価の最高点は100点、最低点は60点とする。 その他の評価点としては(1)各種報告、(2)課題の評価(野帳にて提出)、 (3)早退・遅刻・私語は減点対象とする。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | テキスト:セ-Y3(コクヨ) 参考書: アル・ゴア(2007):『不都合な真実』、ランダムハウス講談社。 小倉義光(1999):『一般気象学[第2版]』、東京大学出版会。 高阪ほか(2006):『GISを利用した社会・経済の空間分析』、古今書院。 | | | | | |
| メッセージ | | 昨年度と異なり本年度は大講義室を中心とした講義が主体の授業です。 よって集中力を切らさずに受講する心構えが必要です。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| 1. ガイダンス(1回) 2. 基礎講義1(1回) 3. 基礎講義2(1回) 4. 基礎講義3(1回) 5. 基礎講義4(1回) 6. 基礎講義5(1回) 7. 基礎講義6(1回) | | | | ・シラバスと授業方針を理解できる。 ・自然を表す各種数値・単位について理解できる。 ・地球の生い立ちについて理解できる。 ・地球温暖化と温室効果の問題点について理解できる。 ・大気の振る舞いの問題点について理解できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施しない | | | |
| 8. 特別講演1(1回) 9. 特別講演2(1回) 10. 特別講演3(1回) 11. 特別講演4(1回) 12. 特別講演5(1回) 13. まとめ・報告(1回) 14. 全体総括(1回) (特別講演は授業担当者以外場合があります) | | | | ・人文的研究と環境との関わりを理解できる。 ・工学的研究と環境との関わりを理解できる。 ・学生自ら規律をもってまとめ報告できる。 ・半年間の講義・講演を総括し理解できる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| | | | | | | | |
| 後期中間試験 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 後期期末試験 | | | | | | | |

| 建築学科 | | | 建築設計演習 | | | | |
|--|------|---|--|----------|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 西澤 岳夫 | | | | |
| 単位数・期間 | | 5単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 2回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 住宅設計に必要な専門分野に関する基礎知識である、意匠、構造、法規を修得し、設計に応用する能力を身に付ける。 1/100スケールの木造住宅の設計図面を作図することができる。 様々な与条件を分析・総合し、設計課題である住宅建築をデザインする能力を身に付ける。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | D:90%,F:10% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 製図道具(トレーシングペーパーを含む)を毎回持参すること。 テキストの第1章「木構造の設計製図」を十分に勉強しておくこと。 設計課題は通年で全3課題でいずれも構造は木造在来工法を前提とする。 | | | | | |
| 到達目標 | | 住宅計画の基礎知識を設計デザインの現場で十分生かすことができる。 木造住宅の図面表現(配置図・平面図・立面図・断面図)が適切にできる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 設計製図課題(80%)+授業態度(20%) ただし、課題の点数配分は課題1題(10%)+課題2題(40%)+課題3題(50%)とする。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書:『建築設計製図』(検定教科書) 参考書:『コンパクト建築設計』(日本建築学会編) 『図解 木造建築入門』(井上書院) | | | | | |
| メッセージ | | 住宅計画に関する基礎知識を設計課題の問題解決に生かせるよう予習・復習を心掛けてほしい。 提出期限を厳守すること。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | | |
| ・ガイダンス、住宅計画の概略(1回) ・木造住宅の基本計画(1回) [配置計画、平面計画、構造計画、意匠計画] ・住宅の各室計画(2回) ・法規に関する基礎知識と演習(1回) <課題1「木造住宅のトレースと設計」> ・トレース(10回) | | | 住宅建築に関する基礎知識として意匠、構造、法規が理解でき、設計製図課題の問題解決へ応用することができる。 配置図、平面図、立面図、断面図等の各種図面の役割を理解した上で、正確にトレースすることができる。 | | | | |
| 前期中間試験 | | | 実施しない | | | | |
| <課題2「平家建て木造住宅の設計」> ・エスキス(8回) ・清書(7回) | | | 課題の目的が理解でき、住宅計画に関する基礎知識を生かし、問題解決に向けて計画的にエスキスを進めることができる。 線種の違いによる意味の違いや、作図ルールを理解し、図面を完成することができる。 | | | | |
| 前期期末試験 | | | 実施しない | | | | |
| <課題3「木造2階建て住宅の設計」> ・エスキス(15回) | | | 設計課題の主旨を理解し、問題解決にむけ、必要な資料収集ができ、設計の基本構想に応用できる。 木造住宅の設計手法に基づき、自分の意図する住宅の企画・構想を練りエスキスを完成することができる。 | | | | |
| 後期中間試験 | | | 実施しない | | | | |
| 課題3「木造2階建て住宅の設計」のつづき ・清書(5回) ・模型製作(10回) | | | エスキスを基に1/100スケールの基本設計ができる。 設計した住宅を模型化(3D化)することで、建築空間に対する認識を深めることができる。 | | | | |
| 後期期末試験 | | | 実施しない | | | | |

| 建築学科 | | | 国語 | | | | |
|---|------|--|-------------|--|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 小田島本有 | | | | |
| 単位数・期間 | | 3単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 2回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 近年、コミュニケーション能力の養成が従来以上に重視されつつある。この授業ではその基礎力を養うことを主眼とし、「読む」「書く」ことの徹底と、そのうえに「話す」「聴く」ことの訓練を進めていきたい。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | A:30%,F:70% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 教科書、ノートはもちろんのこと、この他に国語辞典、漢和辞典、国語便覧はいつも持参すること。毎週、表記トレーニングを行うのでそれは必ず提出する事。こちらで添削後各自に返却するが、自己チェックの甘い学生には再提出を求めるのでそれを忘れないこと。 | | | | | |
| 到達目標 | | コミュニケーションの能力を養い、「読む」「書く」「話す」「聴く」それぞれの能力を総合的に生かすことができる。また、教材を通じて人類の文化に触れ、幅広い視野に立って物事を捉えることができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 試験(80%)・提出物(20%) なお、夏休み課題の読書レポートは単位取得の必須条件となっており、全員の提出が義務付けられている。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | テキスト：『高校生の国語総合』(明治書院) 1年生からの継続 『新現代文 改訂版』(大修館書店) 新しく購入 参考書：『カラー版 新国語便覧』(第一学習社) 大野晋『日本語練習帳』(岩波新書) 小田島本有『釧路からー国語教師のメッセージー』(釧路新書) | | | | | |
| メッセージ | | 授業を面白くさせるための努力をしてほしい。授業に遅れたり、勝手に休んだりしないのはもちろんだが、こちらからの質問にはしっかり考えて答える姿勢を見せること。一人一人の心がけしだい授業は面白くもつまらなくもなる。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| ガイダンス(概説、文章の基礎知識)(2回) 「羅生門」(芥川龍之介)(5回) 表記トレーニング(5回) 聴き取りトレーニング(3回) | | | | 原稿用紙の正しい使い方ができる。 芥川龍之介の小説が理解できる。 正しい漢字が書ける。 メモによって内容を把握し、要約できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 「その子二十」(与謝野晶子・石川啄木)(3回) 「昔、男ありけり」(4回) 表記トレーニング(7回) | | | | 代表的歌人の短歌を味わうことができる。 伊勢物語の世界を味わうことができる。 正しい漢字が書ける。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| 「ナイン」(井上ひさし)(4回) 「孔子泰山の側を過ぐ」(4日) 表記トレーニング(5回) 聴き取りトレーニング(3回) | | | | 小説の深い読み取りができる。 漢文の文体を味わうことができる。 正しい漢字が書ける。 メモによって内容を把握し、要約できる。 | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 「山月記」(中島敦)(7回) 表記トレーニング(7回) | | | | 小説の深い読み取りができる。 正しい漢字が書ける。 | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施する | | | |

| 建築学科 | | | 情報処理演習 | | | | |
|---|------|---|------------------|---|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 加藤 雅也・森 太郎・大槻 香子 | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 表計算ソフトMicrosoftExcelを使い、表やグラフを作成する。さらにVBAによる簡単なプログラミング知識を習得する。Excelの表計算機能だけでは不可能な操作を、プログラムを作成する事により実現する方法を理解する。デジタル画像データの特性を理解し、簡単な編集操作を理解する。情報リテラシーの総まとめとして情報機器を使った総合的な書類の作成とプレゼンテーション方法を習得する。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | C:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | PCの基本操作、Excelによる表作成、データ入力、セルによる計算ができること及び、三角関数などの数学知識と、平均、最大、最小などの簡単な統計知識を有する事を前提とする。 個人でMaicrosoftOfficeがインストールされているパソコンを所有し、予習復習できる事が望ましい。 | | | | | |
| 到達目標 | | MicrosoftExcelで表やグラフが作成できる。 MicrosoftExcelのVBAで簡単なプログラミングができる。 デジタル画像特性と画素数、解像度の関係が理解出来る。 簡単な画像合成ができる。 与えられたテーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成出来る。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 全演習課題の評価平均点(50%) + 2回の定期試験平均点(50%)。 合否判定も同様に行う。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | これからはじめるエクセル関数 & VBAの本(技術評論社);教科書 速攻！パソコン講座Excel2007(毎日コミュニケーションズ);教科書 GIMPフォトレタッチバイブル フリーソフトでここまでできる!(英和出版社);参考書 はじめてのExcelVBA(秀和システム);参考書 | | | | | |
| メッセージ | | プログラミングの知識を身につける事によって、パソコン利用の幅を広げ情報処理能力を高めて下さい。プログラミングの学習は論理的な思考のトレーニングにも繋がります。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| ・Excelでの作表とグラフ作成(4回) ・GIMPによる画像処理(2回) | | | | ・目的がかなった、データ表を作成できる ・セル参照が理解できる ・与えられた問題解決のための、セルの計算式が作成でき、的確な関数利用ができる ・ラスタデータとベクターデータの違い、画素と解像度の関係を理解出来る。 ・画像データの図形選択が複数の方法でできる ・画像データの簡単な補正や編集が出来る | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| ・GIMPによる画像処理(3回) ・マクロの作成(2回) ・VBEの操作(1回) ・VBAプログラミング(2回) | | | | ・画像データの合成ができる ・VBEの操作方法を理解し、簡単なマクロが作成できる ・VBAの基本概念と用語を理解できる ・VBAでセル参照、セル操作ができる | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| ・VBAプログラミング(7回) | | | | ・定数、変数、配列を理解し、利用できる ・VBAによる四則計算ができる ・VBAによる条件分岐、繰り返し処理ができる ・VBAとExcelを使ったアプリケーションの作成ができる | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| ・総合演習(5回) ・発表会(2回) | | | | ・与えられたテーマに対してグループ作業が円滑にできる ・MicrosoftOfficeのアプリケーションやGIMPを使い、プレゼンテーション資料の作成ができる。 ・テーマに則った発表ができる。 | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施する | | | |

| 建築学科 | | | 数学A | | | | |
|---|------|--|--------|--|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 小谷泰介 | | | | |
| 単位数・期間 | | 4単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 2回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | まず, 1年生で使用した教科書の残りの部分を終わらせる。 次に, 数列と関数の極限を通して「無限」の数学的な扱いを理解させる。 その後, 微分法に入り, 微分概念を理解させ, 具体的な微分計算とその応用を習得させる。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | C:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 当り前のことであるが, 教科書・ノート等を忘れず持参し, 授業の内容をきちんとノートをとることが大切である。 授業で指示された問や練習問題を必ず自学自習し, 次の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。 | | | | | |
| 到達目標 | | 極限や微分の基礎概念を理解でき, 論理的思考を身につけることができる。 教科書や問題集の問題(補助教材)の60%を解くことができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 試験の点数の平均点によって評価する(100%)。 6割以上の場合, 授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書: 新訂 基礎数学・微分積分I (大日本図書) 補助教材: 新編 高専の数学1・2 問題集 (森北出版) 参考書: 基礎と演習数学I+A・II+B・III+C (数研出版) | | | | | |
| メッセージ | | 授業の内容を十分に理解するためにはノートをきちんととり, 積極的に質問するように努め, さらに後で必ず復習することが大切である。 ノートは数学B と別にすること。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| 1. ガイダンス(0.5回) 2. 2次曲線(5.5回) 3. 不等式と領域(4回) 4. 場合の数(5回) | | | | ・2次曲線のグラフをかくことができる。 ・2次曲線と直線の関係を調べることができる。 ・不等式から領域を図示できる。 ・積の法則, 和の法則を説明できる。 ・順列と組合せの問題が解ける。 ・2項定理を利用して式の展開ができる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 5. 数列(8回) 6. 微分法 1) 関数の極限(2回) 2) 微分計算(3回) 3) 合成関数の微分法(2回) | | | | ・等差数列, 等比数列の一般項, 部分和を求めることができる。 ・の公式を利用して和を求めることができる。 ・漸化式を用いた計算ができる。 ・関数の極限値を求めることができる。 ・平均変化率, 微分係数, 導関数を求めることができる。 ・基本的な関数の微分計算ができる。 ・合成関数の微分ができる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| 6. 微分法 4) 三角・逆三角関数, 指数・対数関数(5回) 5) 三角関数の微分法(6回) 6) 指数・対数関数の微分法(4回) | | | | ・三角・指数・対数関数の計算ができる。 ・三角・指数・対数関数のグラフがかけ。 ・三角・逆三角関数の微分ができる。 ・対数・指数関数の微分計算ができる。 ・対数微分法を用いて微分ができる。 | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 7. 微分の応用 1) 関数の増減と極値(3回) 2) 関数のグラフ, 最大・最小(4回) 3) 接線・法線の方程式, 不定形の極限(2回) 4) 高次導関数, 曲線の凹凸(3回) 5) 媒介変数表示と微分法(3回) | | | | ・関数の増減・凹凸・極値・変曲点を調べることができる。 ・関数の増減から最大・最小を調べることができる。 ・高次導関数を求めることができる。 ・接線・法線の方程式を求めることができる。 ・ロピタルの定理を用いて不定形の極限値を求めることができる。 ・グラフの概形をかくことができる。 ・媒介変数表示の関数の微分ができる。 | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施する | | | |

| 建築学科 | | | 数学B | | | | |
|--|------|---|---|----------|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 山崎 俊博 | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | ベクトルと行列と行列式についての概念を理解させ、その基本的な性質を使って計算できるようにさせる。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | C:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートすることが大切である。 授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、次の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。 | | | | | |
| 到達目標 | | 基礎事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書と補助教材の問題の60 %は自分の力で解けるようになる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 試験の点数の平均点によって評価する(100 %)。 6割以上の場合、授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書：新編 高専の数学2 第2版(森北出版) 補助教材：新編高専の数学2問題集(森北出版) 参考書：基礎と演習数学II + B、III+C(数研出版) | | | | | |
| メッセージ | | 授業の内容を十分に理解するためにはノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらに後で復習することが大切である。 授業ノートは数学Bと別にすること。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | | |
| ガイダンス(0.5 回) ・ベクトルの基本的な性質(2.5回) ・平面と空間のベクトル(3回) ・ベクトルの内積(1 回) | | | ・ベクトルの和、差を作図できる。 ・ベクトルの成分表示ができる。 ・ベクトルの基本ベクトル表示ができる。 ・ベクトルの内積、なす角を求めることができる。 | | | | |
| 前期中間試験 | | | 実施する | | | | |
| ・空間内の直線(2回) ・平面の方程式(2 回) ・ベクトルの外積(1 回) ・行列(2回) | | | ・直線の方程式、媒介変数表示を求めることができる。 ・平面の方程式を求めることができる。 ・点と直線または平面との距離を求めることができる。 ・ベクトルの外積を計算できる。 ・行列の和、差、積を計算できる。 | | | | |
| 前期期末試験 | | | 実施する | | | | |
| ・逆行列(2回) ・連立方程式の解法(2 回) ・1次変換(2 回) ・回転(1 回) | | | ・2 次の場合の逆行列を求めることができる。 ・逆行列を利用して連立方程式を解くことができる。 ・1次変換を理解して、ベクトルの変換を計算できる。 ・逆変換と逆行列の関係を理解して、逆変換を求めることができる。 | | | | |
| 後期中間試験 | | | 実施する | | | | |
| ・行列式(3 回) ・行列式の展開(3回) ・クラメル公式(2回) | | | ・サラスの方法で2次、3次の行列式を計算できる。 ・余因子を用いて高次の行列式を計算できる。 ・クラメル公式を用いて連立方程式を解くことができる。 | | | | |
| 後期期末試験 | | | 実施する | | | | |

| 建築学科 | | | 体育 | | | | |
|--|------|--|--|----------|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 館岡正樹・三島利紀 | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違う種目に応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | E:50%,F:50% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加すること。 | | | | | |
| 到達目標 | | 個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 運動への取り組み状況・意欲・協調性(70%)運動能力等(30%)とし、総合評価を行う。合否判定もこれに同じ。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 参考書;イラストによる最新スポーツルール(大修館) | | | | | |
| メッセージ | | 屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加すること。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | | |
| ・ガイダンス、柔軟体操、ストレッチ (1回) ・バレ－ボール (基本練習) (2回) バレーボール (応用ゲーム) (2回) ・体力診断テスト (1回) ・運動能力テスト (1回) | | | ・1年の授業の流れと注意事項 ・パスを正確に行うことができる。 ・狙った位置にサーブを打つことができる。 ・ネット上の高い位置でスパイクを打てる。 ・基本的な反則を理解したうえで相互審判をしながらゲームができる。 ・自己の体力・運動能力を確認することができる。 | | | | |
| 前期中間試験 | | | 実施しない | | | | |
| ・ソフトボール(基本練習) (2回) ソフトボール(ゲーム) (2回) ・サッカー (基本練習) (2回) サッカー (ゲーム) (2回) | | | ・基本的なスローイングとキャッチングができる。 ・正しいフォームでのピッチングができる。 ・お互いに協力し安全に注意してゲームを行うことができる。 ・パスやドリブルなどを状況に合わせて使うことができる。 ・基本的な反則(ハンドリング・キッキング・ハイキック)を理解したうえで安全にゲームができる。 | | | | |
| 前期期末試験 | | | 実施しない | | | | |
| ・格技 剣道基本練習 (3回) 剣道 応用 (2回) ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回) | | | ・礼儀作法を理解し剣道用具、扱い方を理解することができる。 ・正しい振りかぶり、打ちおろし、足さばきができる。 ・対人を想定した正しい部位への打ち込みを理解し習得することができる。 ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 | | | | |
| 後期中間試験 | | | 実施しない | | | | |
| ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回) ・アイスホッケー(基本練習) (2回) アイスホッケー(ゲーム) (3回) | | | ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 ・フォア、バックスケーティングができる。 ・相手に正確なパスができる。 ・正確で強いシュートが打つことができる。 ・ポジションを考えたゲーム展開ができる。 | | | | |
| 後期期末試験 | | | 実施しない | | | | |

| 建築学科 | | | 日本史 | | | | |
|--|------|--|---|----------|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 加藤 文次 | | | | |
| 単位数・期間 | | 1単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 我が国の歴史の展開を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などを関連づけて考察する。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | A:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | テキストによる事前学習、地図帳(1年次使用)を用意すると理解しやすい。 | | | | | |
| 到達目標 | | 開国からはじまる日本の近代史の特色を理解するため、具体的な19世紀世界を理解する。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 定期試験80%、年10回以上の課題・ノート等の提出(20%)で評価し、60点以上が合格。60点未満の者には再試験(またはレポート)を課し、60点以上を合格とする。合否判定もこれに同じ。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | テキスト:「日本史A」(東京書籍), 参考書:「日本史広辞典」(山川出版社) | | | | | |
| メッセージ | | 釧路市博物館(釧路の先史時代・釧路の近世と近代)や史跡北斗遺跡を訪れ、釧路の歴史に触れてみてください。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | | |
| 1. ガイダンス (1回) 2. 近代以前の日本社会の概観 (4回) 3. 19世紀世界の動向と日本 (3回) | | | 1. 授業展開の見通しを持つことが出来る。2. 開国を起点としての天保の改革の前後を理解することができる。3. 産業革命がもたらした経済・政治・国際関係の変化を理解することができる。 | | | | |
| 前期中間試験 | | | | | | | |
| 4. 開国と倒幕(3回) 5. 明治新政府と諸改革と社会の変化(3回) 6. 明治初期の外交と反政府運動(2回) | | | 4. アメリカの開国要求の背景と対応を理解することができる。5. 成立間もない新政府の方針にはどのような特徴があったかを理解することができる。6. 明治初期の日本人は外国人をどのように見たのか、また、交渉はどのように行われたかを理解することができる。 | | | | |
| 前期期末試験 | | | 実施する | | | | |
| 7. 近代国家の成立と国際関係の推移(2回) 8. 立憲体制の成立(5回) | | | 7. アジアの諸地域では近代国家建設に向けてどのような動きがあったのかを理解することができる。8. 明治憲法の成立過程と諸法典についてその内容を理解すること、憲法に伴って成立した社会問題発生原因を理解することができる。 | | | | |
| 後期中間試験 | | | 実施しない | | | | |
| 9. 日清戦争と国際関係(2回) 10. 日露戦争前後の世界と日本(3回) 11. 資本主義の発達と社会運動(3回) | | | 9. 日清戦争の原因・経過・影響について、また、戦後の資本主義の確立と社会問題発生原因を理解することができる。10. 日露戦争の影響を理解することができる。11. 戦後の資本主義の発達と社会運動への過程を理解することができる。 | | | | |
| 後期期末試験 | | | 実施する | | | | |

| 建築学科 | | | 物理 | | | | |
|--|------|--|--------|--|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 浦家 淳博 | | | | |
| 単位数・期間 | | 3単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 2回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 物理現象を実体験として理解し、それを数量的、数式的にとらえる能力を養う。科学的思考力を養うとともに、学ぶことの楽しさを実感してもらいたい。2学年では特に動力学、熱を扱う。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | C:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | 副教材はいつでも携行して下さい。演習や試験問題によっては電卓が必要です。数値化、図示をする場合は約束事(授業で指示)をふまえた表現が必要です。 | | | | | |
| 到達目標 | | 物体にはたらく力を図示し、大きさを計算できる。 運動方程式や力学的エネルギー、運動量によって、運動を定量的に扱える。 熱量と温度変化の関係を定量的に取り扱える。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 合否判定: 4回の定期試験の平均が60点以上であること。 最終評価: 合否判定と同じ。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書: 物理I,II(東京書籍, 文部科学省検定教科書) 参考書: ニューステップアップ物理I(東京書籍) チャート式シリーズ新物理I,II(数研出版) | | | | | |
| メッセージ | | 用語や記号を覚えてしまうことで、授業の内容の理解も早まります。 授業は、新しい概念を得るだけでなく、誤った概念や先入観を正す場です。 皆さんの楽しい雰囲気、活発な発言が内容を豊かにします。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| ガイダンス (2回) 力の成分分解 (4回) 力のつりあい (6回) 演習 (2回) | | | | 数値の科学表記ができる。 力を成分分解できる。 力のモーメントを算出できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 等加速度運動 (3回) 運動方程式 (3回) 放物運動 (2回) 力学的エネルギー (4回) 演習 (2回) | | | | 等加速度運動物体の変位を算出できる。 等加速度運動物体の運動方程式を立てられる。 放物運動物体の変位を算出できる。 力学的エネルギーを算出できる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| 運動量 (4回) 等速円運動 (4回) 万有引力 (4回) 演習 (2回) | | | | 衝突における運動量を算出できる。 等速円運動の向心力を算出できる。 惑星の公転周期を算出できる。 | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施する | | | |
| 単振動 (3回) ボイル・シャルルの法則 (3回) 比熱 (3回) 熱力学第1法則 (3回) 演習 (2回) | | | | 単振動の周期を算出できる。 気体の温度、圧力、体積を算出できる。 比熱を算出できる。 内部エネルギーを算出できる。 | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施する | | | |

| 建築学科 | | | 倫理社会 | | | | |
|---|------|--|--------|--|---------|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 藤本 一司 | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 通年 | 週当りの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | ・「聴く」ことは、「私」の生きる力とよるこびをもたらすということを学ぶ。 ・コミュニケーションを立ち上げ、継続することの心地よさを味わう。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | A:100% | | JABEE目標 | | |
| 履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等) | | ・教科書を読んで、自分なりに理解をしておいてください。 | | | | | |
| 到達目標 | | ・他者の言い分を「排除」せずに、確かに「聴く」ことができる。 ・「笑顔」で、コミュニケーションができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 定期試験 60点以上 合格 定期試験:100% 授業への取組:±10% | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 教科書:藤本一司『愉しく生きる技法』(北樹出版) 参考書:内田樹『ためらいの倫理学』(角川文庫) 藤本一司『倫理学への助走』(北樹出版) | | | | | |
| メッセージ | | みなさんと楽しい時間を過ごしたいと思っています。 | | | | | |
| 授 業 内 容 | | | | | | | |
| 授業項目 | | | | 授業項目ごとの達成目標 | | | |
| 夢と現実のあいだ(2) 外見は侮れない(2) 型を使いこなす(1) 未来も過去も「今・ここ」に(2) | | | | 正反対のものに同時に触れる力の大切さを理解できる。 不都合は意識しにくく外見に露出することを理解できる。 自分を守るための型というものを理解できる。 自分を動かすための「時間」のとらえ方を理解できる。 | | | |
| 前期中間試験 | | | | 実施しない | | | |
| 加害者?被害者?(2) 私はいつもすでに決断している(2) 無知の知を知る(2) 考えることを考える(2) | | | | 被害者の位置を先取すると、成熟しにくいことを理解できる。 平凡な日常のルーティーンの大切さを理解できる。 「わからないことをわかる」という位置を理解できる。 「考える」の次数を上げることを意味を理解できる。 | | | |
| 前期期末試験 | | | | 実施する | | | |
| 私の当然さはどのように誕生してきたか(2) 限界を知って、未来を拓く(2) 未知性を愉しむ(1) 私の外部に耳をすます(2) | | | | 自分の当然さを振り回すことの危うさを理解できる。 限界を知ることは、自由獲得の条件であることを理解できる。 決着をつけると見失うものがあることを理解できる。 うぬぼれは自滅の条件であることを理解できる。 | | | |
| 後期中間試験 | | | | 実施しない | | | |
| 身体に敬意を払う(2) 物語が現実をつくる(2) 交換は楽しい(2) つながりを生きる(2) | | | | 身体は「わかっている」ということの意味をできる。 「思い込み」の危うさとよるこびを理解できる。 「もらう」ためには「あげる」、ということを理解できる。 もらったものを感受できる力の意味を理解できる。 | | | |
| 後期期末試験 | | | | 実施する | | | |